# 令和６年度第５回　感染症発生動向調査協議会

令和６年８月２１日

月番：加藤　達雄(感染症全般)、　大野　元(STI)

## １　前月の感染症発生動向について（2024 年第 27 週～30 週・7 月）

**＜全数把握対象疾患＞**

・ 結核は、20 例の報告があり、潜在性結核感染症が 4 例、結核患者 16 例であった。高齢者に多いが、10 才未満を除いた各年代に発生がみられた。累計の前年比で、結核患者は 112.9%、潜在性結核感染症 147.4%と増加している。

・ 腸管出血性大腸菌感染症は、36 例と多数の報告がみられた。そのうち血清型その他が、26 週-27 週に 26 例と多数報告されている。

・ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症は 4 例の報告があり、累計は 20 例で、前年比 181.8%と増加している。

（性感染症について）

・ 梅毒の患者報告数は対前年比で 96.1%、コロナ前の対 2019 年比では 160.9%と、高い値での推移が続いている。

**＜定点把握対象疾患＞**

・ 新型コロナ感染症は、全県域で 27 週より急増している。特に、西濃、中濃圏域での定点当たりの報告数が多い。

・ A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、前年同期比 174.5%と多いが、23 週以降減少傾向が続いている。

・ 手足口病は、対前年比 2777.4%と多いが、27 週をピークに減少傾向である。

・ マイコプラズマ肺炎は、前月比 208.3%と増加している。報告はすべて 20 歳未満であった。

## ２　検討すべき課題

・　結核の高蔓延国出身者が、日本に滞在している期間中に結核の早期診断と確実な治療を受けることが出来る体制作りについて

（外国生まれ結核患者が，日本で結核と診断されて届け出されるのは，入国後 2 年以内が約半数を占めている一方，3 割弱は入国後 5 年以上経過してから結核と診断されている）

〈事務局から〉

・　岐阜県の結核の発生動向について

## ３　情報提供すべき事項

・　入国前結核スクリーニング制度の現状について

## ４　情報提供（月番委員専門分野から）

・　「血液培養ボトルの供給量減少に伴う対応について」　日本感染症学会　2024 年 8 月 1 日

**５　その他（感染症対策推進課から）**

（国通知・事務連絡）

・　妊産婦における劇症型溶血性レンサ球菌感染症（ＳＴＳＳ）について（周知）

・　今夏の新型コロナウイルス感染症の感染拡大に備えた保健・医療提供体制の確認等について

・　手足口病に関する注意喚起について

・　「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）　診療の手引き 2024 年版」等の周知について

（岐阜県メッセージ）

・　この夏も感染拡大に警戒を～夏休みを台無しにしないために～

---

**＜検討結果＞**